

經濟同友会七十年史

目次

序 .....

はじめに .....

第一章 復興を支えた理念「一九四六～一九六一年度」 .....

- 一 進歩的経営者の旗揚げ 23
- 二 ドッジと朝鮮動乱 31
- 三 講和成立と経済自立 35
- 四 経営者の社会的責任 41
- 五 構造問題への取り組み 50
- 六 積極政策への警戒心 52

第二章 発展と調和を求めて「一九六二～一九七四年度」 .....

- 一 自由化の前夜 62
- 二 量的成長の見直し 66

三 昭和四〇年代——新しい産業秩序へ 73

四 国際活動の進展 77

五 企業に求められるもの 83

六 世界競争と協調 90

七 七〇年代の新路線 97

八 経済の枠を超えて 101

九 国際新時代への対応 106

一〇 社会的責任の実践 115

一一 石油危機に挑む 119

### 第三章 低成長時代の模索〔一九七五—一九八四年度〕

一 勉強する同友会 133

二 社会・政治との距離 145

三 産業構造の転換 154

四 花形産業を探せ 157

五 財政再建と歳出削減 163

六	手探りのインフレ対策	167
七	一九八〇年代を描く	173
八	国民運動「行政改革」	185
九	国をデザインする同友会	197
一〇	教育改革に踏み込む	205
一一	日米摩擦の前哨戦	211
一二	レーガノミクスの下で	217
一三	政治献金にメス	227
一四	途上国との対話	229
一五	次代に向けて	243

#### 第四章 バブルと摩擦の中で「一九八五～一九九四年度」

.....

一	新生経済同友会の始動	253
二	プラザ合意を踏まえて	260
三	バブル経済の発生	269
四	規制緩和と企業の革新	275

五	積年の思いの消費税	289
六	正念場の日米摩擦	296
七	開かれた日本に	310
八	地価高騰時代の到来	320
九	バブル経済の末期	328
一〇	冷戦後のフレーム	338
一一	九〇年代の行政改革	344
一二	高齢化に備える	350
一三	〳日本型〴経営を見直す	355
一四	「対米」「対アジア」で苦慮	362
一五	細川政権の功罪	377
一六	地球環境問題への取り組み	384

## 第五章 市場主義への回答〔一九九五～二〇〇二年度〕

一	企業統治の指針	396
二	橋本改革を支援	407

第六章 企業を創り、国を描く〔二〇〇三～二〇一〇年度〕

三	企業に新風を	418
四	金融システム不安	428
五	新興国の危機	443
六	「橋本」から「小淵」へ	452
七	小林体制で新機軸	463
八	景気が改革か	477
九	「小泉政権」を支える	487
一〇	市場の進化の実践としてのCSR	510
一一	新世紀の入り口で	520
一	新事業創造立国	531
二	小泉改革の行方	550
三	揺れる外交	581
四	社会との対話	592
五	新・日本流経営の創造	603

第七章 復興と成長に挑む 「二〇一一―二〇二六年度」

六	自民政権末期の構造改革	615
七	民主党政権との距離	638
八	一〇年後の「国のかたち」	649
九	世の中の要請に応える	666

一	国難へ迅速対応	690
二	民主党政権の終焉	701
三	本格化する支援	715
四	アベノミクスに賛同	721
五	第三の矢を支える	744
六	現地での奮闘	751
七	挑戦の年に	757
八	経済同友会の模索	768
九	長期政権を支える	775
一〇	持続可能性を求めて	784

一一 第四次産業革命のうねり 798

筆者あとがき 809

## 資料

活動年表 815

年度別役員・委員会委員長 983

定款／定款の主な変更の歴史 1063

各地経済同友会一覧 1087

刊行あとがき 1089